俳句に初挑戦

英会話教室
弓削 月 19:30 ～ 弓削地域交流センター
生名 月 11:00 ～ 3分団集会所
岩城 木 20:00 ～ 岩城総合支所庁舎

上島町の皆さま、こんにちは！今回は最近の趣味の話をしたいと思います。私は、結構前から俳句をしたいなと思っていました。そんな中、冬休みの間に正岡子規や高浜虚子などを育てた「俳都」と呼ばれる松山へ立ち寄り、城山公園や美術館へ行ってきました。俳句ポストも見ることができて、いつかそのポストに投函してみようと思いました。

早速ですが、一句詠んでみたいと思います。

鐘の音　大空に響く　初燕

私は田舎育ちです。店もない、民家も数軒しかない小さな村に住んでいました。それゆえ、野外で過ごす時間が多く、自然の変化を常に感じていました。中でも鮮明に覚えているのが、燕の飛来です。燕が帰る時は仲春で、最初に一羽が姿を見せる瞬間をこの句で表現したいなと思いました。空に生命が溢れるようになり、景色は一変します。燕は夏の訪れを知らせる鐘のようです。

私は前から燕に惹かれていました。ヨーロッパの燕は、南アフリカやナミビアなどから渡ります。サハラ砂漠を越え、何千キロを飛んでいきます。この一見不可能な距離だと思う雄大な旅は、自然の奇跡だと思います。

上島町の皆さまも、今までいろいろな試練を乗り越えて、ここまでたどり着いたと思います。「お疲れ様」を伝えたいです。今からまたいろいろなことがあるかもしれませんが、今こそ休憩を取り、ここまできたことを誇りに思うべきだと思います。

字余りで稚拙な句なのですが、読んでくださり感謝いたします。俳句が好きな方がいましたら、感想をお教えいただければ幸いです。

今月の担当 ALT
サンズデイビス・フィン（岩城）

わたしの上島旅

— 第28回 —

今月の旅人

藤岡 美和さん　松山市

Go! Go! BROMPTONサイクリングツアー

愛媛県に生まれ育った私ですが、上島町に初めて行ったのは4年前。因島から生名島へ船で渡り、二つの橋でつながった佐島と弓削島を走り抜け、弓削島に着いたら大急ぎで因島へ戻る。うまく船を乗り継いで、いかに早くしまなみ海道に戻るか！？楽しいながらも、非常にあわただしい自転車旅でした。

昨年秋、また上島町を訪れる機会がありました。今度はサイクリングツアーのガイドの仕事です。初めて生名島の西側まで一周してみてびっくり。防波堤が低くて海が近い！車が少ないのに道はよく整備されている！トイレが充実していて清潔！そして何より景観の素晴らしさは驚くほど。澄み切った海と幾重にも重なる近くの島々が織りなす風景はため息が出るほど美しい。秋の二回のツアーが大成功だったことはいうまでもありません。

さて、それからというもの、私の上島町愛は大きくなる一方。泊りがけで遊びに行くたびに地元の方々とのいい出会いがあり、また行きたくなるんです。人の温かさ、これもまた上島町の大きな魅力です。

岩城橋の開通でサイクリストを始め、多くの人が上島町にやって来ます。

私は声を大にしていいたい。
「一気に走り抜けるなんてもったいない。泊まって、ゆっくり流れる贅沢な島時間を楽しまなくちゃ！」
と。

お問い合わせ　0897-72-9277
上島町観光協会 Kamijima Tourism Association
http://www.kamijima.info

魚島俳歌柳会【魚島】

・第六波甘くみていたオミクロン
・五輪花に期待もあれば失望も
四年後の夢そそぐ感動
大林　正憲

・気が付けば何時の間にやら高齢者
・これからもマスク外せぬしみと皺
横井里津子

・冬ざれに少しの命もやす菊
・木枯しにカーテン揺らす隙間風
田作　京子

・立春や母旅立ちの雪の舞ふ
・コロナ菌姿変えてるオミクロン
能地　典子

・三回目予防接種は二月かな
・建国日コロナ靡いている国旗
松原　妙子

・桜花石鎚山の風と来る
・満載の積荷が秘話の吉田丸
松原　彌一

令和五年歌会始のお題「友」

歌に詠む場合は「友」の文字が詠み込まれていればよく、「友人」、「学友」、「友好」のような熟語にしても、差し支えありません。

詠進歌の詠進要領

◆詠進歌はお題を詠み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。

◆**書式**　用紙は半紙とし記載事項は全て毛筆で自筆してください。（書式図参照）

◆**期間**　9月30日（金）まで（消印有効）

◆**宛先**　〒100-8111　宮内庁
※封筒に「詠進歌」と記載

書式図（半紙横長）

お題「友」
、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、
（山折り）
〒住所
電話番号
氏名（ふりがな）
生年月日
性別
職業

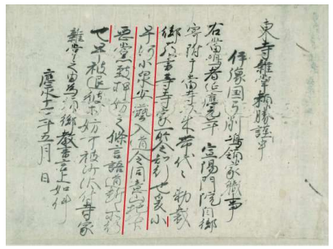
詳細は「令和五年歌会始」で検索

かみじま郷土話 12　弓削島荘に現れた海上勢力

約半世紀にわたって続いた南北朝の内乱は、各地の在地勢力を成長させ、荘園の支配関係を大きく変えました。各地の荘園領主は、領主自身が直に現地に赴いて荘園経営に直接関わる方法や、在地の有力者に荘園経営を任せて年貢のみを受け取る所務請負（しょむうけおい）といった方法などによって荘園を維持しようとしました。

弓削島荘では、安芸国の小早川一族の4人が、荘内で「乱妨狼藉（らんぼうろうぜき）を致（いた）す」していることが東寺百合文書の康永2年（1343年）の記録に遺されています。その一族の中でも、海賊的性格が強かった小泉氏は、他の3人が弓削島荘から引き上げた後も荘に留まって活動を続けました。荘園領主である東寺は、この問題を解決するために、所務請負によって弓削島荘を維持しようとしました。そして、その請負代官に選んだのは、弓削島荘で「乱妨狼藉」を働いた小泉氏本人でした。

所務を請負った小泉氏でしたが、応安6年（1373年）には請負った額を滞納するなど、東寺の立場からすると優秀な請負代官とはなりませんでした。また、小泉氏は讃岐の海賊である山路（やまじ）氏と「同意」し、弓削島周辺で支配拡大を図るなど、海上勢力としての活動を展開していました。東寺は、そのような小泉氏に見切りをつけ、後に村上海賊として著名になる村上氏を新たに請負代官としました。しかし、請負代官となった村上治部進によると、小早川小泉氏、野島（能島村上）氏、山路氏らの海上勢力が弓削島荘を「押領（おうりょう）」（他人のものを無理やり奪う事）しており、所務請負の遂行が難しい状況になっていました。弓削島荘の周辺は、それぞれの海上勢力による支配が進められ、荘園の維持が困難になりつつありました。



年貢納入がままならない請負代官の小泉氏を批難する文書
赤線：「小早川小泉安芸入道、山地以下悪党に同意せしめ、押妨を致すの条、言語道断の所行なり」
京都府立京都学・歴彩館「東寺百合文書WEB」（ト函80）の画像を元に作成

教育課
曽根　大地